



#twnovel x58

東日本大震災後の私達

(第二版)

ゆないキスト (@Kyzt__)

・はじめに・

「ついのべ(#twnovel)」とは、140字以内のミニ小説です。

東日本大震災後、私が書いたついのべ作品から58作品を選んでまとめました。

中には超絶に不謹慎に感じられるモノもあるかもしれませんが...
...

「問題提起」として書いたついのべもあります。

基本的には元気が出るような、
希望の持てるようなついのべ作品を書いたつもりです。
みんなが笑顔になれる未来を、願っています。

最後にオマケとして、十六連四行詩「大地と人間の冬と春」を置いてあります。

・ 1 ・

「諸君！我が国は非常に強大な敵に侵攻されている！我が国を守りたいか？...守りたいか？...ありがとう。私も首相として、あんな卑劣な敵には負けない！一歩も退かない！絶対に勝つ！チカラを、貸してくれ。私も命を懸ける。頼む。どんな手段を使っても、アイツらに勝つんだ！」演説。 #twnovel

・ 2 ・

「戦士たちよ！素晴らしい勇気と強い心を持つ、我が誇れる戦士たちよ！…敵は強大だ。しかし、我々は勝つ！勝てない理由など無い！信じよう。全ての仲間を。全ての素晴らしい仲間を！…全て終わったなら、飲もう。泣こう。笑おう！…出発だ！全力を尽くして、戦え！」隊長の演説。 #twnovel

・ 3 ・

「僕はもうダメなようだ…。汚れてしまった」地球は言った。月は答えた。「何を言ってるんだ？キミは空気も水も持ってるじゃないか。私には何も無いのに」「ああ、そうだったね」「だから、少しぐらいであきらめないでくれ。キミはとても幸運な星なんだよ」「そうか。悪かった」 #twnovel

・ 4 ・

「しかし、僕の上の生物達は、もうコントロールできなくなってる。どうしたらいいかな」「キミの力で一掃してしまえばいいのに...」「それは、ダメだ！38憶年かけて育ったんだ」「...なら、不安がるコトはないだろ？彼らは彼らのチカラを持ってる。信じてあげればいい」「そうか...」 #twnovel

・ 5 ・

「守るだろう。どんな最悪の事態になったとしても、私がキミを守るだろう」私はキミの髪を撫でる。キミはぐっすり眠ってる。

「そして、ありがとう。私はキミがいたから、やれるんだ、頑張れるんだ」キミはかすかに身じろぎした。私は外へ出る。キミを、みんなを守る為に、私は行く。 #twnovel

・ 6 ・

亡霊はキミの目の前に現れて言う。「私は死んだの。たくさんの無念を抱えて。この世を呪いながら！」キミをにらむ。...しかし、やがてその顔に笑顔を浮かべて言う。「でもいいの。アナタは助かったのだから。...生きて！私を忘れて、楽しんで生きて！...でないと呪うわ！」最後のキス... #twnovel

・ 7 ・

「何とか会いたい」と、亡霊はガレキの町を歩き続ける。家族を探して。何年経っただろう、あの戦争から…。この夜の下、やっと彼女は娘と出会った。「…お母さん!」「…やっと会えた…!」二人の亡霊は、抱き合いながら消えていく。あの世でも一緒にいるために。 #twnovel

・ 8 ・

「我々から「希望」を奪うコトなんて、できやしないさ！」デウカリオンはゼウスに言った。「パンドラは必死に「希望」を守った...！我々はその炎を、この心に持ち続けている」デウカリオンの輝きに、ゼウスは驚く。自身が作り出した「鉄の種族」がこんなにも美しいモノだったとは...！ #twnovel

・ 9 ・

「プロメテウスよ。やはり鉄の種族に炎を与えたのは間違いでは無かったか？」 「そんなコトはないよ、ゼウス」 「しかし、彼らはあの炎を使って、地上を汚してしまうぞ」 「それはキミも同じだよ。キミの熱情で、天界の秩序は乱れたろ？」 「...ううむ」

#twnovel

・ 10 ・

「しかしその熱情から生まれた者もいる。デュオニソスやヘラクレス...」 「ま、まあ... そうだな」 ゼウスは顔を赤らめた。「恥ずかしがるコトは無いさ。求め続けるコトは正しいんだ。ヘラクレスは私達神々さえ救ってくれた」「ああ、驚きだ」「だから、信じよう。鉄の種族の美しさを」 #twnovel

・ 11 ・

「不謹慎だと？私にとっては褒めコトバだな」ルシファーは笑いながら言った。「神は死んだ。もういいだろう、自由にさせてやれよ、人間達を！」ミカエルをにらむ。「人間達を信じろ！彼らは彼らで、彼らの「社会」を築くだろう...！」 #twnovel

・ 12 ・

「シヴァ、今回のはさすがにやりすぎじゃないか...？」私はシヴァに訊いた。「大丈夫だ。迷える魂は全て涅槃へと導いた。悲しむコトは無いさ」「...信じているのか？」「そうだ。最悪の事態になる前に...人間は人間のチカラで立ち直るべきなんだ」破壊神の言葉は、意外にも優しかった。 #twnovel

・ 13 ・

深海、日本海溝ではナマズさん達が頑張っています。「な、なんとかしてバランスを取り戻すんだ！」力を合わせて、なんとか日本列島を支えようとしています。もう少し...もう少しでバランスを取り戻せるでしょう。どうか彼らを責めないで。 #twnovel

・ 14 ・

「大洗の海が大好きなんです」少年は海を見つめながら言った。
「家が流されたのに？」私は訊いた。「それは、仕方なかったんです。海に罪は無い。...ただ...」「ただ？」「この海が汚されるコトは我慢できない。なんとかならないですか？」少年のまっすぐな目に、私は言葉を無くした。 #twnovel

・ 15 ・

彼は今、西福寺に住んでいる。震災前は暴走族に所属していた彼だが、意外にも寺での生活が気に入ったようだ。「寺では、聞こえるんです」「何が?」「過去の...無念を抱えて死んでいった人達の声が」「...コワくないの?」「コワくない。あの霊達の方が、よっぽど僕達より生きてる」 #twnovel

・ 16 ・

「日本は未知の領域に入ろうとしているね」「日本、カッコイイ！」「もう後戻りはできない...」「頑張れ！日本！」「...キミは誰？私は独り言を言ってるだけなのに」「私は、亡霊。死んでも死に切れないから、全力で応援するコトにしたの。亡霊だって頑張ってるんだから、頑張って！」 #twnovel

・ 17 ・

崩れた本棚を整理していると、こびとが来て言った。「大変だね。何か一つ願いを叶えてあげる。何がいい?」「ああ...でも私は被害が少なかったほうなんだ。被害の大きかった、北の方の人の願いをたくさん叶えてくれるかな?」「...わかった」こびとは消えた。願いは叶ったのだろうか。 #twnovel

#edano_nero to...

· 18 ·

#edano_nero #edano_netanone #sengoku_nero #sengoku_netoke
#kan_okiro #kan_kakuseiShiro #touden_ganba #minnna_ganbare
#Nihon_Saisei #twnovel

・ 19 ・

「次の競技は、輪番停電です。日本の得意競技です」「世界中で輪番停電、行われるようになりましたからね～。いかにスムーズにリレーできるかが、見どころです」「では、スタート！日本の第1グループ、停電に入りました！」「整然とした、素晴らしい停電です」「日本、優勝濃厚！」 #twnovel

・ 20 ・

「なんだって...！？なぜあんなにスムーズで美しい輪番停電ができるんだ！？...日本は化け物か！？」「あんなテクニカルな輪番停電は、他の国には真似できないだろう...一体どんな訓練をしているんだ？」世界中が不思議に思う日本の輪番停電。その謎は当の日本人にも、解明は難しい...！ #twnovel

・ 21 ・

「また揺れましたね」「そうですね～、最近は多いですね」「こう地震ばかりだと、本棚が片付かなくて困りますね」「まあ、慣れですよ。季節が変わればおさまりますから」「じゃ、仕事行ってきます」「毎度どうもありがとうございます！」コンビニでの会話。 #twnovel

・ 22 ・

「あなた、午後はお隣さんの家に行くの？」 「そうだよ。お隣さん、風力発電機の調子が悪くて大変なんだ。修理してあげなきゃ」 「今日は暖かいらしいから、家の中の電気は切っておいて充電したほうがいいわね」 「さすがだな。...夜も暗いままでもいいけど」 「まあ、あなたったら...」 #twnovel

・ 23 ・

政府から忘れ去られた町。しかし各家庭の風力発電機と太陽光発電機で、町の中の電気を全てまかなっている。食物も、ほぼ自給自足だ。町民はお互いに助け合って、平和に暮らしている。忘れ去られていたとしても、幸せな町。 #twnovel

・ 24 ・

「今日はいいい風が吹きますね」「ああ、これなら今月の電気は大丈夫そうだ。風力発電機を直してくれてありがとう！おかげ様だよ」「いえいえ。礼には及びません。困った時はお互い様です」「...ん？また何か作るのかい？」「雨で動く揚水発電機です。梅雨の前に」「さすがだね」未来。 #twnovel

・ 25 ・

停電の日の夜、キミと丘に星を見に行った。「こんなに綺麗なんだ...！」キミは素直に驚く。「アレがぎょしゃ座、アレがふたご座...」星座を教えてあげる。暗闇の中、身を寄せていたキミは、不意に私にキスをくれた...！「コレは、キス座。...星が見えたでしょ？」...停電も、悪くないね。 #twnovel

・ 26 ・

彼女と二人で花見に行く。「...こんな時に、不謹慎じゃない？」
彼女は言った。「そんなコトはないさ。生命力を感じなきゃ、生きていけない。人間だって自然の一部なんだ」「人間も自然の一部、か...。忘れていたかもしれないね」彼女は舞い散る桜を見る。僕達は精一杯咲いて、散る。 #twnovel

・ 27 ・

停電の日、川北が私の家にやってきた。「あれ？川北、どうしたの？」「ああ、この地域も停電なんだな。...ちょっと不安になったからな」「...そうか。ありがとう。まあ、何にもできないけど...泊まってく？」「すまないな。...不安なのは、オレの方なんだ」急に川北は私を抱きしめた！ #twnovel

・ 28 ・

「この世界が腐っていくというなら、全力で腐らせるのを止めなきゃいけないじゃないか！なんですぐにあきらめちゃうんだよっ！」川北は井上さんに掴みかかる。「...もう無理だよ。あきらめよう」井上さんはひどく疲れたようだ。「嫌、だね。オレは最後まであがいてみせる！」 #twnovel

・ 29 ・

「老人達はそれでいいだろうさ。だが、後に残された者達はどうか？この負の遺産を背負って生きていけというのか？」川北は木下社長に言った。「...そこまでは、考えもしなかったな」力の抜けた様子で、木下社長は言った。「とぼけるんじゃないねえ！こうなるコトはわかってたはずだ！」 #twnovel

・ 30 ・

「どんなところでも、住んでいけますよ」笑顔で彼女は言った。
「なぜ？僕の所に来ればいいのに」「...私の最愛の人は、ココで
いなくなりました。まだ、生きているかも...」「そんなコト...」
言葉を失う僕。彼女の目は哀しく潤んでいた。「もう私は、大切
なモノは失いたくないんです！」 #twnovel

・ 31 ・

「諸君！我々は失敗した…。誰の責任だと思う？」隊長は隊員を見渡す。「…申し訳ない！失敗の責任は全て私にある！…しかしまだコレが、完全な失敗だと決まった訳じゃない。もう一度、チカラを貸してくれ！信じてくれ！」隊長はアタマを下げる。「やろう。二度と失敗はしない！」 #twnovel

・ 32 ・

「花畑を作ろう」彼はそう決めた。全てを失った土地でも、花は咲く。彼はひたすら花を植え続けて一生を終えた。10年後、そこは景勝地として、観光客の訪れる場所となった。「...綺麗だ...」観光客達は思わず目を見張る。完璧に計画された花畑。それは世界にも例を見ないモノだった。 #twnovel

・ 33 ・

「...行くわ。いつか戻ってくるためにも」彼女は再び、力強さを取り戻していた。「確かにココに残っていても...私は静かに死んでいだけ...」僕の左手を握りしめて言う。「生きるわ。ありがとう。私は、私のために生きる。そして伝えていく。彼の思い出を」僕は泣きそうになっていた。 #twnovel

・ 34 ・

片翼の悪魔はほくそ笑む。「これだけ痛めつけて、縛っちまえば...二度と立ち上がろうとは思わないだろ？」...私は答える。「我々日本人の変態性を舐めるなよ！縛られたら、縛られただけ強く興奮して立ち上がるんだ！」「.....こ、このド変態どもめっ！(>_<)」 #twnovel

・ 35 ・

「わぐわぐさん、今日は何を作るの？」 「やあコロリ。今日は原発に挑戦だ！」 「タイムリーだねえ♪」 「まず、ウランからプルトニウムを精製...」 「できたよ。カンタンだね」 「次に、原子炉内の圧力と温度調節！」 「ありゃ、失敗したよ」 「コロリはドジだなあ...北半球が死んじゃうぞ」 #twnovel

・ 36 ・

あれから、3ヶ月。キミのいない生活にも慣れたと思っていた。
しかし、キミは私の夢に出てくるんだ。とびきりの笑顔で。諦め
ようとしても、諦められない…。キミの亡骸は、まだ見つかって
いない。 #twnovel

・ 37 ・

遅れた入学式。学長の式辞。「...キミ達は大変なコトを経験していく。私にもこれからのコトは予想できない。しかし...学ぶんだ！全てのチカラを持って。確かに我々は失敗したのかもしれない。ならば、立て直そう。全力で！この国の未来は、キミ達の双肩にかかっているんだ。頼む。」 #twnovel

・ 38 ・

「国が何かやってくれる、なんて思っていたら、何も進展しない！私達で国を作ってしまうおう！」大災害から立ち直るため、東北6県は協議を重ね、新しい国「東北国」として独立した。日本の各地はそれに追従、どんどん独立。最終的に「日本国」の領土は東京都だけになってしまった…。 #twnovel

・ 39 ・

「総理、日本の領土がどんどん減って、東京都だけになってしまいましたよ！」 「...ああ...。これは想定外の範囲外だ...。どうしたらいいのか...」 「総理、どうするんですか！？早く対策を！」 「まずは状況をしっかり把握してから、対策を...」 「...ダメだこりゃ。私も亡命するコトにしよう」 #twnovel

・ 40 ・

最後の生き残りは、11人。軍艦に住み着いて日本を脱出した。しかし彼らを受け入れてくれる国はもう無かった。日本はあまりにひどいコトをやってしまった…。艦長となった彼女は言う。「確かに、もう日本という国はありません。しかしこの11人は最後の日本人...生き抜きます！」 #twnovel

・ 41 ・

「何をやってるんだ！復興に全力を尽くさなきゃダメだろ！？」
野党の党首が、首相を罵倒した。「...なら、アンタは全力を尽くしてるのか？反論するだけで何もしない」「何だっ！？」荒れる国会。議長の一言でそれは収まった。「争うなよ。力を合わせるコトにその力を使ってくれ！」 #twnovel

・ 42 ・

記者会見。「総理、コレは想定外の範囲外だったそうですが、なぜ想定しなかったんですか？」「...想定しなかったから、想定されなかったんだ！キミは想定してたか？」「...いえ...」「じゃあ、誰が想定してた？想定してたなら、早く教えろってハナシだよ！オレ、アタマ悪いんだから」 #twnovel

・ 43 ・

「私が完璧になんでもこなせるなんて、誰が言ったんだ？」「...いや誰も言ってません」「だろ？だから私に期待する方が間違っていたんだ」「...そう、かもしれませぬね」「まったく...総理大臣になんてなるんじゃないよ。完璧を求められすぎる。...「完璧な人間」などいないのにさ」 #twnovel

・ 44 ・

「では今日は「隠し方」のセミナーです。活発な意見交換をお願いします」T電力の役員は言った。「こんなセミナーをやっていいんですか？」参加者の一人が質問した。「...もちろん、いけませんよ。だからこのセミナーの存在も隠す必要があります。その為のセミナーです」「なるほど」 #twnovel

・ 45 ・

「老人達はそれを守ろうと力を尽くしているけど、我々には何の意味もない。世界の状況はまるっきり変わってしまった。変わってしまったコトを嘆いても仕方ないだろ？変化を受け入れて生き方を変えていかなくちゃ、生きる意味がない。変化するコトに意味があるのさ」狼男は語った。 #twnovel

・ 46 ・

店の準備をしていると、一人の老人が来て言った。「コレを、直してほしいんだが…」小さな地球儀を差し出す。二つに割れていた。「ありゃ。でも直せるよ。待ってて下さい」30分ほどで地球儀を直した。しかし、老人は忽然と消えていた。その日から、地震は治まった。大切な地球儀。 #twnovel

・ 47 ・

「宝石なんて、いらないよ！」そう、キミは言った。記念日なのに…。「その分、募金しましょうよ」笑顔でそう言うキミは、眩しいくらいに輝いてた。あの日、涙をみせていたキミは…また強くなったね！僕はキミに言う。「確かに、宝石なんていらないや。キミは本当に輝いてるもの」 #twnovel

・ 48 ・

「人間の心を持たない者が、人間界にまぎれ込んだって、害悪に
しかならない！」老僧は人間の心を持たない妖怪達をどんどん護
符のチカラで封印していく。「まったく...いつからこの中は妖怪
だらけになっちまったんだ!？」国会議事堂の中、老僧は走り回
って戦う。...血を流しながら。 #twnovel

・ 49 ・

老僧は国会議事堂内を走り回って、「人でなし」達を封印していく。「人の心を持っていないヤツらは、すべて人でなしだ」気づくと、国会議事堂内には誰も居なくなっていた。「この議員どもは、全て人でなしだったか…。コレで日本も少しは良くなるだろう」…老僧は国会議事堂を出た。 #twnovel

・ 50 ・

「さて。...もう一度、確認したい。私はこの国が好きだ。この国で生まれ、この国で人生の大部分を過ごしてきた。当たり前だろう、好きになるのは。だから私は全力を尽くす。もう一度、この国を美しくしたい。以前よりもっと！力を合わせよう！反目してる場合じゃない！」首相の演説。 #twnovel

・ 51 ・

「理想を語らないでどうするんだ!？」首相は言った。「理想を語らなきゃ、少しでも理想に近づけないじゃないか...！なぜ理想像さえ、考えようとしらないんだ？バカじゃないのか!？...もしくは、アホだ！」水島首相の熱い所信表明演説。 #twnovel

・ 53 ・

首相の演説。「確認しておこう。みんな、幸せを願ってる。みんな、幸せになりたいんだ。世界中の皆がそれを切実に願ってる。...なのに何故、それが叶えられないんだ！？おかしいじゃないか？...私は、全力を尽くす。皆の幸せの為に。皆が笑顔になれるなら、私一人泣いたっていいんだ」 #twnovel

・ 53 ・

「私は犠牲になってもかまわない。みんなが笑える社会を作れたなら、私はどんなに苦しくても幸せだろう」首相は訴える。「だから、チカラを貸してくれ！本当に願うんだ！みんなが、みんなの幸せを...全員、幸せになれる社会を！...その為の政治じゃないか？何を争う必要がある！？」 #twnovel

・ 54 ・

荒野となった土地を、二人でゆっくり歩いていく。ふと、不安になって私は倒れそうになる。キミが私の手をとって支えてくれた。「大丈夫か、クレイニ？」キミが私の顔を覗き込む。「いつまで歩き続けなければいいんだろうね...」「歩くしかないんだ。歩くのをやめたら、全てがムダになる」 #twnovel

・ 55 ・

私とキミは春の中を歩き出す。空は青、樹々は緑、太陽の光は黄白色。暖かく優しい。「世界は、美しいね!」「...うむ」「こんなに美しかったかな?」「...ドワーフはこの大地の美しさを知っている。大地は美しく、変化を繰り返す。正しい」「キミの言葉も美しいや」「...そうか」歩く。 #twnovel

・ 56 ・

ヒマワリが咲き乱れた。この土地に。しかしその花を見る人はこの地には一人もいない。汚染された大地に、もう人間は住めなくなってしまった。しかし人間以外の生物は、独自の生態系を作りながらこの土地で進化していく。彼らは、正しく生きている。

#twnovel

・ 57 ・

本当に美しい、引き込まれそうな青。彼女は海を、岩場の上から見つめてる。「以前と同じね。海は変わらないわ」彼女は言う。

「でも私達は変わってしまったね。また一緒になれたらいいな」
そう言って、花束を投げる。もう泣かないと、彼女は決めた。また会える日までは、生きて行く。 #twnovel

・ 58 ・

そう、強がってみせた私に、キミは小さな笑顔をくれた。そしてキミは、その背中の中の白い羽根をいっぱい広げ、飛び立った！私はその姿が見えなくなるまで、見送った。私達は生き抜いて行く。どんな未来になったとしたって...！ 行こうよ。悲しいコトなんて、何もないさ。 #twnovel

・ あとがき ・

2011年3月15日から7月7日までにツイッター(Twitter)上で書いた
ついのべ(#twnovel)の中から、
東日本大震災をテーマにした58作品をまとめて、
ツイッターで書いた四行詩から作った
十六連四行詩「大地と人間の冬と春」
をあわせて今回、電子書籍化してみました。

2011年3月11日、
私も茨城県にて被災しました。停電、断水、食糧難、ガソリン
不足、と……
今まで全く経験しなかったコトも経験しました。

もちろん宮城県、岩手県、福島県の皆さんの被害に比べたら微々
たるものですが。

それら全ての経験から学んだコトは、忘れたくないのです。
その為に、このついのべ作品を残しておくコトは、意味のあるコ
トだと思います。

東日本大震災で失ったモノも多いですが、新たに生まれたモノも
確実にある。

それらを、大切にしていきたい。

今は、チカラを合わせて、一日も早い復興を。

日本を、信じています。

今も、Twitter上で#twnovelと#twpoemを、作り続けています。

もし興味を持った方は、書いてみることをオススメします。

ちなみに、私のTwitterアカウントは、

@Kyzt__

です。（アンダーバー_は二つ）

では、また、会いましょう。

2011年7月31日 由内傷人

.....あとのあとの後ろに、

十六連四行詩「大地と人間の冬と春」

を、置いておきます。

コチラも、今回の震災を受けて、心を込めて書いた作品です。

では。

十六連四行詩

「大地と人間の冬と春」

・作・由内傷人

一「予言」

邪悪な神が、罪の無い人間を虐殺する……！

邪悪な人間の悪意が、この世を悪意に染めていく……！

我々の心は、痛み、軋んで、身悶えする……！

だが、死ぬな。生きるコトをあきらめるな！この苦痛に負けるような我々じゃない！

二「憤怒」

「なぜこんなコトを起こすんだ!？」

私は邪悪な神に訊く。

「なぜこんなコトを起こすんだよ!？」

.....彼は試して笑ってる。私達の「心」をね。

三「試練の日々」

試されてるんだ、きっとね。

私達はもっと強くなれるし、近づける.....!

負けるなよ、もうさんざんだけどさ、負けるなよ!

私達は私達、私達のチカラを合わせて生きよう.....生きよう!

四「脈動」

この地震が、地球の脈動のように感じられて。

地球は育ってる、動いてる。

私達は育てられているんだ、この地球に。

憎むなよ、憎むなよ。この大地が私達を産んだ。

五「呪われた彼女」

彼女はひたすら、救われるコトを願った。

呪われたその身の、その痛みに身悶えしながら。

彼女はひたすら、救われようと身じろぎする。

彼女の痛みは、我々の痛み。死ぬな、死ぬな！

六「罪悪感さえ、味方につけて」

「なぜ彼女は死んだのに、オマエはのうのうと生きている!？」

……と、訊かれても答えるコトができない罪悪感。

私は、進む! ……罪悪感さえ味方につけて。

私は、進む! ……全ての想いを引き継いで。

七「救えるか？」

救われないなら、救おう。

救えないなら、なんとかして救おうとしよう。

信じられるなら、未来はある。

あきらめるコトなんて、できやしないんだ……!

八「銀色の雨」

この降りかかる雨に、意味は無いんだ。

立ち上がり直そう。そんな意味のわからないモノに、負けやしない！

銀色の雨が、静かに今日も降る……。

熱を持って、動こう、振り払おう！

九「凍った未来？」

私達の未来は真っ青に凍ってしまった？

……ならば溶かそう、我々の情熱で溶かそう。

やがて花々が色とりどりに咲き乱れるだろう！

溶かそう、咲かそう！未来を、咲かそう！

十「三月十九日の月」

月は銀の涙を流して地上を見つめる。

私達は築き上げていく。何度壊されたとしても。

私達は築き上げていく。その正しさを理解しつつ。

月の涙の味は、琥珀の苦み。

十一「人間のチカラ」

神を呪っても、悪魔を呪っても仕方ないさ。

今はただ、信じるだけだ、「人間のチカラ」をね。

立ち向かえるんだ、どんな危機にだって……！

私達は生きる。誰に何と言われようが、「人間のチカラ」によって生きる！

十二「危機と日常」

笑える人は気にせず笑ったらいい。

楽しめる人も気にせず楽しんだらいい。

その日常生活の大切さを、よく覚えておいてね。

それらを全て無くした時に、なんとか取り戻すためのチカラに変えるんだ。

十三「笑顔の価値」

笑顔の価値を、私達は知ってる。

笑顔ほど、最高のモノは無いさ。

だから全力で取り戻そう、笑顔をね！

笑顔の本当の価値を、私達はわかってる！

十四「私達は、生きる！」

私達は、生きる！

喜び、悲しみ、グチを言い合いながら、ガヤガヤとうるさくね。

ひたすら、生きるんだ！生きるんだ……！

たとえ今、チカラを無くしそうになったとしても……再び一緒に歩こう。

十五「あの夜闇の中」

夜闇の中、耳を済ませば聞こえてくる。

彼女はどこへ行った？……あの笑っていた彼女は？

夜闇の中、様々な感情が生まれては消える。

遥かな古代から、人間は繰り返してきた。夜と朝、冬と春を。

十六「春へ。」

全て、春。

今は、春。

これからが、春！

.....行こうよ。悲しいコトなんて、何もないよ。

十六連四行詩 「大地と人間の冬と春」

作成：2011年4月28日

由内傷人

最後まで読んでくれてありがとう！

全ての方に、全ての世界に、感謝します。

私達は生きてゆける。変えてゆける。

信じて、協力して、願っていきましょう。

本当にありがとう。心を込めて。

乗り越えて、更に良い世界となれるコトを、私は願っています。

由内傷人

(#twnovel×58) 東日本大震災後の私達

<http://p.booklog.jp/book/24054>

著者：由内傷人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/amethysta2020/profile>

発行所：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24054>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24054>